



内村鑑三は、近代日本の生んだ最大の思想家の一人である。本資料集は、彼の精神、思想を一層立体的にとらえようとするものである。

内村鑑三研究資料集成

全9巻

鈴木範久 編・解説 ● クレス出版

内村鑑三研究資料集成 全9巻

鈴木 範久 編・解説

| | | | |
|-----|---------|------------------|-----------------------|
| 第1巻 | 人物論 I | 定価 9,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-905-0 |
| 第2巻 | 人物論 II | 定価 11,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-906-7 |
| 第3巻 | 国家論 | 定価 11,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-907-4 |
| 第4巻 | 信仰論 | 定価 12,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-908-1 |
| 第5巻 | 無教会論 I | 定価 8,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-909-8 |
| 第6巻 | 無教会論 II | 定価 8,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-910-4 |
| 第7巻 | 伝記 | 定価 14,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-911-1 |
| 第8巻 | 背教 | 定価 11,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-912-8 |
| 第9巻 | 遺墨 | 定価 8,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-913-5 |

A5判/上製函入/クロス装 平成27年11月末日刊行

揃定価 92,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-914-2 (セット) C3316

クレス出版好評既刊書

西田幾多郎研究資料集成 全9巻

小坂 国継 編・解説

| | | | |
|-----|----------------|------------------|-----------------------|
| 第1巻 | 高山岩男集 I | 定価 9,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-698-1 |
| 第2巻 | 高山岩男集 II、務台理作集 | 定価 10,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-699-8 |
| 第3巻 | 瀧澤克己集 | 定価 10,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-700-1 |
| 第4巻 | 高坂正顕集 | 定価 12,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-701-8 |
| 第5巻 | 下村寅太郎集 | 定価 9,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-702-5 |
| 第6巻 | 柳田謙十郎集 | 定価 10,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-703-2 |
| 第7巻 | 宮島 肇集 | 定価 9,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-704-9 |
| 第8巻 | 論文集 (一) | 定価 13,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-705-6 |
| 第9巻 | 論文集 (二) | 定価 13,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-706-3 |

揃定価 95,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-707-0 (セット)

高山樗牛研究資料集成 全九巻

花澤 哲文 編・解説

| | | | |
|-----|--------------------|------------------|-----------------------|
| 第一巻 | 『樗牛兄弟』・『人文』 | 定価 10,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-828-2 |
| 第二巻 | 西宮藤朝・赤木桁平 | 定価 10,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-829-9 |
| 第三巻 | 三井甲之・高須芳次郎・浅野晃 | 定価 10,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-830-5 |
| 第四巻 | 工藤恒治・成田正毅・後藤丹治 | 定価 10,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-831-2 |
| 第五巻 | 『樗牛全集』・『人間高山樗牛』集ほか | 定価 9,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-832-9 |
| 第六巻 | 秋山正香・長谷川義記 | 定価 11,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-833-6 |
| 第七巻 | 随想・研究・論文集 | 定価 12,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-834-3 |
| 第八巻 | 『滝口入道』・地縁集 | 定価 8,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-835-0 |
| 第九巻 | 研究・論文集 | 定価 12,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-836-7 |

揃定価 92,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-837-4 (セット)

宣長・鈴屋関係資料集 全七巻

中澤伸弘・宮崎和廣 編・解説

| | | | |
|------|-----------------|------------------|-----------------------|
| 資料篇一 | 伝記と終焉の記、蔵書目録ほか | 定価 12,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-644-8 |
| 資料篇二 | 宣長五十年、六十年行事関係ほか | 定価 16,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-645-5 |
| 研究篇一 | 本居宣長稿本全集 第一輯 | 定価 18,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-646-2 |
| 研究篇二 | 本居宣長稿本全集 第二輯 | 定価 16,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-647-9 |
| 研究篇三 | 本居宣長翁全伝ほか | 定価 15,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-648-6 |
| 研究篇四 | 宣長と二人の女性ほか | 定価 10,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-649-3 |
| 研究篇五 | 鈴屋祭記念ほか | 定価 8,000 円 (税別) | ISBN978-4-87733-650-9 |

揃定価 95,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-651-6 (セット)

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎(03)3808-1821 ☎(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版

●書店名

『内村鑑三研究資料集成』刊行にあたって

立教大学名誉教授 鈴木範久

内村鑑三は、近代日本の生んだ最大の思想家の一人である。戦前の日本では、おそらく内村は、多少名の知られたキリスト者の一人にすぎなかったかもしれない。しかし、大きな戦争をへて時代が変わり世界と日本の危機がつるにしがたい、いつの間にか他の著名人たちの名が消え失せたにもかかわらず、逆に内村の思想を求める声はますます高まっている。戦争の悲劇、文明の頹廃、自然の破壊などなど、まさに内村の指摘は、荒野に叫ぶ旧約聖書の預言者のように響き始めている。

その内村の思想の全貌は、没後五十年を記念して刊行された『内村鑑三全集』全四〇巻（岩波書店）のかたちでまとめられている。それは内村の思想を知るための第一次資料である。しかし、著作には著作の限界がある。自己に関するためにかえって書き得なかったこともあるし書きすぎたこともある。

これを補完する資料が、身近にいた人々の追憶や回想である。本『内村鑑三研究資料集成』は、そのような人々の著した資料により、内村鑑三の精神、思想をいっそう立体的にとらえんとしたものである。この研究資料に収められた生々しい証言により、内村の思想が体温をともなつて感じとられることが期待されている。

第一巻と第二巻では内村の人物につき身近に接した友人や門下生を中心とした証言を集めた。第三巻と第四巻は執筆者に示した国家論、信仰論を見ることができ、

第五巻と第六巻は内村が唱えた世界でもユニークな無教会キリスト教を多角的に論じた最初のものである。第七巻は没後まもなく書かれた伝記。第八巻は、その内村から離反しながらも深い刻印をさざまれた人々による内村論である。第九巻は内村の愛好した言葉からなる遺墨集である。いずれも今では入手しがたい資料からなっている。

内村鑑三研究資料集成 全9巻構成

| | | |
|-------------|------------------------|----------------|
| 第1巻 人物論 I | 内村祐之編 内村鑑三追憶文集 | 聖書研究社 一九三二 |
| | 大島正健ほか 内村鑑三全集月報 | 岩波書店 一九三二—一九三三 |
| 第2巻 人物論 II | 田村 直臣 我が見たる植村正久と内村鑑三 | 向山堂書房 一九三二 |
| | 矢内原忠雄 内村鑑三と新渡戸稲造 | 日産書房 一九四八 |
| | 正宗 白鳥 内村鑑三 | 細川書店 一九四九 |
| 第3巻 国家論 | 浅野猶三郎 信仰と恩寵 | 日英堂書店 一九四一 |
| | 太田十三男 予言者としての内村鑑三 | 大翠書院 一九四八 |
| 第4巻 信仰論 | 石原 兵永 回心記 | 新教出版社 一九五一 |
| | 塚本 虎二 内村鑑三先生と私 | 伊藤節書房 一九六一 |
| 第5巻 無教会論 I | 畔上 賢造 無教会主義 | 東方書院 一九三四 |
| | 石原 兵永 無教会史（無教会主義論集第1） | 三一書店 一九五〇 |
| | 関根 正雄 無教会主義と聖書（同第2） | 同 一九五〇 |
| | 小池 辰雄 無教会神学論（同第2） | 同 一九五〇 |
| | 秀村 欣二 無教会主義と原始基督教（同第3） | 同 一九五〇 |
| | 中沢 洽樹 無教会と伝統（同第3） | 同 一九五〇 |
| 第6巻 無教会論 II | 塚本 虎二 私の無教会主義 | 伊藤節書房 一九六二 |
| 第7巻 伝記 | 宮部 金吾 内村鑑三君小伝 | 独立堂書房 一九三二 |
| | 益本重雄・藤沢音吉 内村鑑三伝 | 同刊行会 一九三五 |
| 第8巻 背教 | 湊 謙治 信の内村鑑三と力のニイチエ | 警醒社書店 一九一七 |
| | 小山内 薫 背教者（新選小山内薫集） | 改造社 一九二八 |
| 第9巻 遺墨 | 長谷川周治 内村鑑三先生御遺墨帖 附解説 | 長谷川周治 一九四一 |

■第2巻 我が見たる植村正久と内村鑑三

我が見たる内村鑑三

内村鑑三君と私は五十年以上永い／＼間交を結んだ。或る人はこれを見て奇跡だとまで云ふて居るが、私も自から不思議に思はざるを得ない。内村君の如き個性の強い戦闘家と斯の如き永い交を結び、一度たりとも中たがいをした事が無かつたのは實に奇跡と云ふてよいかも知れない。恐らくは内村君程社會に於て又家庭に於て苦戦した人は其例極めて稀れであると思ふ。歴史上内村氏一人なりと云ふも過言でないかも知れない。内村君は口を以て又は筆一本でも自由に生活し得る技倆を有し、金錢よりは遙か貴重な寶の所有者であつた。然るに君は主義のため其寶も地に葬られ。社會より棄てられ。貧の極に陥り。京都の一隅に於て食するに困つた時代もあつた。今日京都に於て氏を記念する一室は依然として残つて

■第3巻 予言者としての内村鑑三



内村家三代（先生岳父令嗣）

I 豫言者としての内村鑑三

内村鑑三とは誰ぞ。

彼は文久元年（一八六一）年）上州高崎藩の武士の長男として生れ、明治十年（十七歳）札幌農學校第二期生として入學、同十四年首席を以つて卒業。此の間前校長米人クラーク大佐が残した基督教の信仰に導かれた。是、彼が信仰の生涯の第一歩であつた。同十七年（二十四歳）渡米。ペンシルバニヤ州立白痴院に勤務し、翌年アマスト大學に入り修學三年、此の間總長シーリー先生より信仰上大なる感化を受けた。滯米四年にして歸朝。其の後第一高等學校及び他の諸校に轉々教鞭を執つた。

明治二十一年二十八歳の時、第一高等學校に於いて、彼は教育勸語は實踐すべきものであつて禮拜すべきものでないと言ひし事によりて不敬事件を起し、以後逆境に立つた。其の不遇の中に『基督信徒の慰』『求安録』『地人論』等不朽の著作を成した。

同二十九年（三十六歳）萬朝報の英文記者となり、三十一年より東京獨立雜誌主筆として、獨



伊藤一隆・内村鑑三・新渡戸稲造・大島正健